

訂正

本誌第127巻第12号掲載の「第683回東京都地方会抄録」の演題8において、東京都地方会から訂正の申し出がありました。以下に正誤表を掲載いたします。

該当ページ	誤	正
P1550 (62) 演題 8	8. 視神経炎を呈した抗 MOG 抗体関連疾患の 1 例 東京医科大学小児科 中野英太郎, 森地振一郎, 岡田このみ, 中澤はる香, 林 佳奈子, 竹下 美佳, 呉 宗憲, 小穴 信吾, 山中 岳 11 歳男児. 眼痛と視力低下で受診. 既往に ADHD あり. 眼底検査と脳 MRI 検査から視神経炎と診断し, ステロイドパルス療法を行い視力は回復した. 血液検査で抗 MOG 抗体が陽性となり, 同抗体関連疾患の確定診断を得た. 現在再発はないが, 本疾患は視力予後が良好なもののステロイド依存性に再発寛解を繰り返す症例もあり今後の経過に注意が必要である.	8. <u>COVID-19 流行下で発症した小児の神経性やせ症に性的虐待が疑われた 1 例</u> <u>国立国際医療研究センター病院</u> 黒木 興心, 金澤 剛二, 下澤 克宜, 高砂 聡志, 田中 瑞恵, 兼重 昌夫, 関 純子, 赤松 智久, 瓜生 英子, 山中 純子, 望月 慎史, 水上 愛弓, 五石 圭司, 七野 浩之 11 歳女児. COVID-19 第 1 波の期間に神経性やせ症を発症し, 治療に難渋した. <u>食行動異常の背景に父からの性的虐待を疑い, 多職種で家族支援をすることで経口栄養の摂取量が劇的に増え, 抑うつ的な症状が軽快し退院に至った. 小児科診療では, 様々な体調不良の背景に虐待などの心理社会的要因も疑いながら診療にあたる必要がある.</u>